

三上達也教授追悼号によせて

立命館大学政策科学部長 重 森 臣 広

三上達也先生は、2014年9月26日、急逝されました。まだ、58歳の若さでありました。教育者としても研究者としても円熟を迎え、多くの研究成果が期待され、多くの学生が先生の指導を望んでいただけに、無念でなりません。

先生は1956年9月10日にお生まれになり、富山県立高岡高等学校をご卒業後、立命館大学理工学部電気工学科に入学されました。ご卒業とともに、理工学研究科博士課程前期課程、同後期課程に進まれ、1989年には公益財団法人京都高度技術研究所の研究員に就任し、この間、1992年に工学博士（立命館大学）を取得されました。

1992年の国際関係学部助教授としての就任とともに、母校立命館大学での先生の教員歴が始まりました。このときすでに、政策科学部設置の構想が提起され、その開設準備の作業が進められており、先生は新学部設置準備のお仕事を担っておられました。1994年4月の政策科学部開学とともに、国際関係学部から移籍され、2001年に政策科学部教授に昇任し、立命館大学における政策科学分野の研究、教育に多大なご貢献をいただきました。

先生のご専門は情報工学ですが、その学識はシミュレーション、人工知能など幅広い領域にわたっております。先生についてとりわけ印象深く思い出されるのは、社会科学系、工学系の諸分野の研究者からなる政策科学部・研究科の教員として、ご自身の専門領域の境界線を大胆に踏み越えて、政策科学という新しい学問の求心力の強化を絶えずお考えになっていたことです。異分野間の架橋の努力と言い換えることもできるかと思います。「社会的コンフリクト」に焦点を据えたシミュレーションの可能性の探求は、先生のそうした情熱が研究面で結実したものだと言えましょう。それだけではありません。境界線を越えた知的営為は、ご専門の知見を教育システムの開発に応用する探求にも向かわれました。ネットワーク型教育システムに関するご業績がその成果と言えましょう。

先生はアーティストでもありました。私事になりますが、先生の研究室はちょうど私の研究室の隣で、夕刻をすぎるとよく心地よいギターの演奏が聞こえて参りました。私はてっきり息抜きにCDか何かを聴いているのだらうと思っていたのですが、あとからその演奏は先生ご自身によるものであることを知り驚かされたのを覚えております。ステージで先生が演奏するところを拝見したことはありませんが、壁の向こうのライブを存分に楽しませていただいたことは、よき思い出です。

優れた研究者であり、魅力あふれる教育者であり、アーティストでもあった先生には、大学運営、学部・研究科の運営にもご活躍いただきました。そうした先生のご貢献に敬意を表し、ここに立命館大学政策科学会より『政策科学－三上達也教授追悼号』を発刊し、改めて哀悼の意を表します。

2016年3月